

## 社会福祉学科 2年 後期 専門科目

1. 権利擁護を支える法制度
2. 刑事司法と福祉
3. 介護の基本Ⅲ
4. 介護の基本Ⅳ
5. 生活支援技術Ⅴ
6. 介護過程Ⅲ
7. こころとからだのしくみⅣ
8. 発達と老化の理解Ⅱ
9. 認知症Ⅱ
10. 障害の理解Ⅱ
11. 喀痰吸引
12. 経管栄養
13. 介護総合演習Ⅲ
14. ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ
15. ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ
16. 貧困に対する支援
17. 保険医療と福祉
18. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ
19. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
20. 精神医学と精神医療Ⅱ
21. 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ
22. 精神保健福祉の原理Ⅱ
23. 精神ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ
24. 精神ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ
25. 精神ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
26. 発達心理学
27. カウンセリング基礎演習
28. 社会心理学
29. 臨床心理学
30. 心理アセスメント基礎実習
31. 介護実習Ⅱ-②
32. ソーシャルワーク実習Ⅱ
33. 精神ソーシャルワーク実習Ⅱ
34. 福祉心理研究Ⅱ

社会福祉学科						
科目名: 権利擁護を支える法制度				担当教員 氏名: 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須) 精神保健福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのよ 社会福祉士・権利擁護センターぱあとなあ富山の会員としての経験を活かして、被後見人等の権利擁護の在り方や関 うな授業を行っているか: 係機関・多職種チームによる支援、司法との連携について具体的、实际的に学習をします。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助活動と関連する法を理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。</li> <li>・成年後見活動の実際について理解する。</li> </ul>					憲法、民法、権利擁護、 意思決定支援、成年後見制度、 日常生活自立支援事業	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力			法律の知識や権利擁護の制度を総合的に理解することができる。			
B 専門的技術			権利擁護活動を具体的に理解することができる。			
D 問題解決力			事例を通して問題を解決する力を身につけることができる。			
G 倫理観			法制度を学ぶことで倫理観を醸成する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 40 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 課題の論点整理と自己の見方、考え方を評価する。その他は出席態度を評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは別に定めた日時で実施する。8回目と最後の講義時にレポート提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題に対する論点の確認を行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な 時間(分)	
①相談援助活動と法 憲法			【予習】第1章を読む 【復習】①の復習		【予習】120分 【復習】120分	
②民法 行政法			【予習】第1章を読む 【復習】②の復習		【予習】120分 【復習】120分	
③法の基礎			【予習】第2章を読む 【復習】③の復習		【予習】120分 【復習】120分	
④権利擁護の意義と支える仕組み			【予習】第3章を読む 【復習】④の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑤権利擁護活動と意思決定支援1			【予習】第4章を読む 【復習】⑤の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑥権利擁護活動と意思決定支援2			【予習】第4章を読む 【復習】⑥の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑦権利擁護にかかわる組織・団体			【予習】第5章を読む 【復習】⑦の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑧権利擁護にかかわる専門職の役割			【予習】第5章を読む 【復習】⑧の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑨成年後見制度の概要			【予習】第6章を読む 【復習】⑨の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑩成年後見活動の動向			【予習】第6章 【復習】⑩の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑪権利擁護活動の実際 その1			【予習】第6章を読む 【復習】⑪の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑫権利擁護活動の実際 その2			【予習】第6章を読む 【復習】⑫の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑬日常生活自立支援事業 成年後見制度利用支援事業			【予習】第6章を読む 【復習】⑬の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑭ケアマネジメントにおける権利擁護 ケーススタディ			【予習】事前に配布する資料を読む 【復習】⑭の復習		【予習】120分 【復習】120分	
⑮振り返り ～社会福祉士会の取り組み～			【予習】テキスト全体の復習 【復習】⑮の復習		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト:最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座9 「権利擁護を支える法制度」第2版 ISBN978-4-8243-0152-9(中央法規)				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストを中心に進めていきますが、講義後半では事例を通じて成年後見活動の実際について学び、権利擁護の理解を深めていきます。						

社会福祉学科									
科目名: 刑事司法と福祉			担当教員 氏名: 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須) 介護福祉士受験資格(必須) 精神保健福祉士受験資格(必須) 社会福祉主事任用資格			
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: テキストに記載されていない専門的業務の内容を取り上げることや、実務の中で経験した処遇に係る面接技法、対象となる人やその関係者との関わり方などを具体的事例を挙げて講義を進めている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。					司法 更生 相談援助				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動 目標		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8					
A 知識・理解力		更生保護制度の概要を理解する。							
B 専門的技術		保護観察の方法や実施上の諸施策について学ぶ。							
D 問題解決力		制度などを用いた支援について理解する。							
G 倫理観		司法に必要な倫理観を醸成する。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: その他とは、授業出席状況、授業中の態度などのことである。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートを第7コマ目に中間レポート第15コマ目後に期末レポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはA、B、C、D、Eの評価でフィードバックする。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①刑事司法と福祉			【予習】第1章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
②社会と犯罪Ⅰ(犯罪の定義など)			【予習】第2章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
③社会と犯罪Ⅱ(犯罪の定義など)			【予習】第2章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
④犯罪原因論と対策			【予習】第3章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑤刑罰とは何か			【予習】第4章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑥刑事司法			【予習】第5章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑦少年司法			【予習】第6章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑧施設内処遇(成人)			【予習】第7章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑨施設内処遇(少年)			【予習】第8章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑩社会内処遇Ⅰ(更生保護の理念と概念)			【予習】第9章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑪社会内処遇Ⅱ(更生保護の実際)			【予習】第10章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑫医療観察制度の概要(審判、処遇の流れ、関係機関、専門職との関係)			【予習】第11章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑬司法と福祉の連携の展開(地域生活定着支援センター等)			【予習】第12章と第13章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑭犯罪被害者支援(法的地位、DV防止、ストーカー規制法、被害者等通知制度、被害者支援員制度、被害者支援センター、犯罪被害者窓口)			【予習】第14章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
⑮コミュニティと刑事司法			【予習】第15章を読む 【復習】講義内容をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分					
使用テキスト: 最新 社会福祉養成講座・精神保健福祉士養成講座10刑事司法と福祉 中央法規 ISBN: 978-4-8058-8240-5			その他参考文献など: 社会内処遇の社会学 日本更生保護協会発行 伊福部 舜児著						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 上記のテキストにそって授業を進めるので、あらかじめ重要語句等の理解に努め予習しておくこと。									

## 社会福祉学科

科目名: 介護の基本Ⅲ				担当教員 氏名: 長井 賢希					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護福祉士および施設管理者としての経験を有した教員が、専門職として基本的な考え方や姿勢の根拠となる尊厳の保持の観点から、ニーズや特性に応じたサービスについて学ぶ。									
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード			
本科目は介護の基本Ⅰ・Ⅱと同様に、介護領域の礎となる科目である。自立支援に繋げる観点から要介護者の特性に応じたフォーマルサービス、インフォーマルサービスを理解し、尊厳を重視した個別ケアを考える科目である。						介護福祉士 尊厳 その人らしさ 生活ニーズ			
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2、3、4、5、6、7、8				
A 知識・理解力			介護福祉士の現状を理解することができる						
C 論理的思考力			介護実践における連携の必要性を思考することができる						
G 倫理観			介護福祉士倫理綱領から介護福祉士の倫理について考察することができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に求められる介護福祉士像、介護福祉士倫理綱領等に関して、学生間で議論する。その他30%は、授業態度、各内容のグループワーク等の参加姿勢を評価します。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回に中間評価のための課題としてのシートを記入。最終評価のための試験は行わず、後半の授業終了ごとに意見などを記入するシートを配布し、それを評価の対象とする。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①介護福祉士を必要とする人の理解				テキスト1章第1節を事前に読み、事後は資料を整理する。【予習】30分【復習】30分					
②生活の理解(障害のある方の生活)				テキストBさんの事例を事前に読み、事後は資料を整理する。【予習】30分【復習】30分					
③「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解				テキスト1章第3節を読んでおく【予習】30分【復習】30分					
④「生活ニーズ」の理解 自閉症のある人のニーズ				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑤その人らしさとは何か、当事者が持つ権利				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑥人として生きる権利				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑦介護における尊厳の保持 パターナリズムを考える				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑧中間評価のために前半授業と課題について考える				テキスト第1・2章を復習する【予習】30分【復習】30分					
⑨ニーズの代弁と当事者主権を考える				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑩生活のしずらさの理解とその支援				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑪生活のしずらさ 精神疾患のある人の生活				配布資料を理解する【予習】30分【復習】30分					
⑫生活を支えるフォーマルサービス(社会的サービス)とは				テキスト2章第2節を読んでおく【予習】30分【復習】30分					
⑬高齢者のためのフォーマルサービス・地域連携				テキスト2章第2節を読んでおく【予習】30分【復習】30分					
⑭障害者のためのフォーマルサービス				テキスト2章を復習する【予習】30分【復習】30分					
⑮生活を支えるインフォーマルサービス・まとめ				テキスト2章を復習する【予習】30分【復習】30分					
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版 中央法規 出版介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-8393-8				その他参考文献など: 「当事者主権」中西正司・上野千鶴子著 岩波新書					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃からテレビや新聞等で介護や介護福祉士に関するニュースや記事に関心をもって、授業に参加してください。									

## 社会福祉学科

科目名： 介護の基本IV			担当教員 氏名： 野村 幸伸			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			介護現場の経験及び管理の実務経験をもとに、安全管理や多職種協働及びリスクマネジメントを教授する。また、現場における倫理的ジレンマを学ぶことで倫理に対する意識を深める。			
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
介護における安全確保や事故防止の安全対策を学習する。さらに、保健医療に関する基礎知識について理解するとともに、介護従事者の心身の健康管理を学び、生活者としてよりよく生きる介護福祉士を目指す科目である。						安全確保 リスクマネジメント 健康管理 感染管理 多職種連携、協働
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
B 専門的技術	危機的介護場面に遭遇しても、その状況に応じた心身ケアが提供できる支援方法を理解する。					
D 問題解決力	利用者の安全な生活を確保するために、将来の危険予測ができるリスクマネジメント能力を身につけ、実践方法を理解する。					
E 自己管理能力	感染管理に関しては、利用者への感染源にならないように、自らを律して健康管理ができ、チームケアにおけるリーダーとしての姿勢を理解する。					
F チームワーク・リーダーシップ	医療職等の他職種の役割を理解し、チームの一員として、介護に関わる専門性を発揮しながらチームケアのあり方を修得する。					
G 倫理観	人権擁護の視点に立った専門職としての介護福祉士を目指し、福祉社会に生きる「私」になる。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %	レポート： 10 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項：「その他」においては、授業中の態度、積極性、出欠状況、授業後の課題演習などの提出状況などで評価する。 特に講義中における必要時以外のスマートフォン利用については厳しく評価する。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク		
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業終了後に課題レポートを配布し、理解度を確認する。終試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：課題レポートやテストを実施し、採点、コメントし、返却する。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
②安全対策 ヒヤリハット報告の重要性について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
③介護現場における事故(1) KYT			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
④介護現場における事故(2)KYT演習			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑤KYTグループ発表			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑥倫理の必要性和倫理的問題、事例分析をグループワークを通して理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑦テスト			【予習】テキストを読んでくる 【復習】①～⑦までの復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑧感染防止対策(高齢者施設におけるお感染防止対策)の具体的実践方法を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑨高齢者施設での感染症発生時の対応(アウトブレイク対応)について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑩協働する多職種の機能と役割について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑪保健・医療・福祉職の役割と機能について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑫労働環境の整備(職場環境における実践)について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑬労働環境の整備(労働安全衛生)について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑭心の健康・ストレスの対処方法について理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分		
⑮まとめとテスト			【予習】⑧～⑮の復習する	【予習】30分		
使用テキスト：最新介護福祉士養成講座『介護の基本Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5764-9				その他参考文献など： 介護事故とリスクマネジメント あけび書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 介護の基本IVは、介護における全体的なまとめの科目であるので、1年次に学習した科目の復習をしながら、知識を確認して履修を進めてください。						

## 社会福祉学科

科目名: 生活支援技術Ⅴ				担当教員 氏名: 長井 賢希					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		介護福祉士および施設管理者としての経験を有した教員が、専門職として基本的な考え方や姿勢の根拠となる尊厳の保持の観点から、ニーズや特性に応じたサービスについて学ぶ。							
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード			
多様な状況にある多様な要介護者・要支援者に対する生活支援のあり方を、事例などを通して学ぶ。						多様性 自己実現 介護ロボット ICT			
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
B 専門的技術			生活支援に関する技術及び福祉用具などの活用を適正にすることができる。						
C 論理的思考力			要介護・支援者が求める生活支援技術をアセスメントできる力を養う。						
F チームワーク・リーダーシップ			多職種連携のためにチームワーク・リーダーシップを身につける。						
G 倫理観			尊厳を守ることのできる価値観を深める。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:「その他」50%とは、授業中で行う演習についての提出物について評価です。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第15回目に中間評価のための演習を行います。第29回目に最終評価のための課題を示し、第30回においてまとめの演習とレポート提出について指示します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントなどを入れ適宜返却します。									
使用テキスト: 最新「介護福祉士養成講座 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版【第2版】」「生活支援技術Ⅰ」ISBN978-4-8058-8395-2 「生活支援技術Ⅱ」ISBN978-4-8058-8396-9 中央法規出版				その他参考文献など: 「個室・ユニットケア読本」特別容疑老人ホーム風の村 著 ミナルバ書房					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容		学修に必要な時間(分)			
回数									
1	生活支援技術の意義の復習・要介護・支援者の安全			テキストⅠ 第1章を読む 配布資料を復習する		【予習】30分 【復習】30分			
2	介護者の安全と負担軽減について			参考文献を借り読む		【予習】30分 【復習】30分			
3	自立した移動に向けた介護福祉職の役割			テキストⅠ 第3章を読む 配布資料を復習する		【予習】30分 【復習】30分			
4	自立した移動に向けた多職種との連携			テキストⅠ 第3章を読む 配布資料を復習する		【予習】30分 【復習】30分			
5	福祉用具の活用			参考文献を借り読む		【予習】30分 【復習】30分			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名: 生活支援技術Ⅴ		担当教員 氏名: 長井 賢希	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	公的制度における福祉用具と新たなアイデア	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
7	適切な福祉用具を選ぶための視点	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
8	最新の福祉用具と対象に合わせた福祉用具のアイデア	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
9	身じたくや食事の場面における福祉用具の活用	テキストⅡ 第2章を読む	【予習】30分 【復習】30分
10	食事の場面における多職種連携	テキストⅡ 第2章を読む 配布資料の復習	【予習】30分 【復習】30分
11	休息・睡眠における生活支援技術	テキストⅡ 第5章を読む 配布資料の復習	【予習】30分 【復習】30分
12	休息・睡眠における多職種連携	テキストⅡ 第5章を読む 配布資料の復習	【予習】30分 【復習】30分
13	情報やコミュニケーション支援	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
14	情報やコミュニケーション支援に必要な機器	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
15	前半のまとめの授業	これまで使用した配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
16	介護ロボットの現状	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
17	介護ロボットの活用: 移動と見守り	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
18	その他の介護ロボットの活用	テキストⅠ 第4章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
19	災害時における生活支援の意義	テキストⅠ 第7章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
20	災害時における生活支援・生活不活発病の防止	テキストⅠ 第7章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
21	災害時における生活支援・生活不活発病の防止 東日本大震災より学ぶ	テキストⅠ 第7章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
22	被災地における生活支援	テキストⅠ 第7章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
23	被災地における生活支援・排泄の問題	配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
24	避難生活における生活支援	テキストⅠ 第7章と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
25	障害のある方の避難及び避難所生活への支援	配布資料を読む 参考文献を借り読む	【予習】30分 【復習】30分
26	防災における図記号	テキストⅠ 第7章第2節と配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
27	国家試験過去問から学ぶ生活支援技術	配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
28	国家試験過去問から学ぶ多様な障害への生活支援	配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
29	国家試験過去問から学ぶ多様な疾患への生活支援	配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分
30	国家試験過去問から学ぶ多様な生活支援のあり方	配布資料を読む	【予習】30分 【復習】30分

## 社会福祉学科

科目名: 介護過程Ⅲ				担当教員 氏名: 長井 賢希		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		実習で情報収集したケースを用いて、アセスメントの方法について学び直し、介護過程の実践的展開に結びつける。計画立案と実施、評価について学ぶ。介護現場の実務経験がある教員が担当する。				
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
介護福祉士には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められます。本科目ではその介護過程の計画の立案・実施・評価の過程、及び利用者の特性に応じた介護過程の実践知識を学びます。また介護実習Ⅱ-②に向けた実習記録を使用した演習も行います。						計画の実施・評価 介護実習 記録方法 チームワーク
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			介護過程の展開方法が理解でき、展開に必要な知識が理解できる。			
B 専門的技術			介護過程を展開する上で、学んだ知識を組み立てることができ、根拠に基づいた思考ができる。			
C 論理的思考力			利用者の特性に合わせた介護過程を組み立てることができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: %		発表: %		実技試験: %
その他: 30 %						
特記事項:最終評価のためのテストは、介護過程の事例を用いた演習を行います。その他の30%は各内容の事例発表、グループワーク等の参加姿勢を評価します。個人による演習だけではなくアクティブラーニングの一環としてグループによるディスカッションを多く取り入れます。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:29回・30回に評価のための演習を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:コメントや修正箇所を記入し返却します。						
使用テキスト:①最新介護福祉士養成講座「介護過程」第2版 中央法規出版 ISBN978-4-8058-8398-3 ②介護福祉士養成講座編集委員会 ICF国際生活機能分類 WHO 中央法規 ISBN978-4-8058-4417-5				その他参考文献など:「その人を中心に考える介護計画」毛利 亘・牛田 篤 著、現代図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):演習には積極的に取り組んでください。また授業中の私語は十分注意してください。						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
回数						
1	介護実習の事例から学ぶ アセスメントの実際					介護過程Ⅱの資料を確認してくる 【予習】60分
2	介護実習の事例から学ぶ アセスメントの工夫					演習を振り返る 【復習】60分
3	介護実習の事例から学ぶ アセスメントの演習					演習を振り返る 【復習】60分
4	介護実習の事例から学ぶ アセスメントの留意点とは					演習シートを修正する 【復習】60分
5	介護実習の事例から学ぶ 介護計画の立案					演習シートを修正する 【復習】60分



※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名: 介護過程Ⅲ		担当教員 氏名: 長井 賢希	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 課題の明確化	テキスト第2章を読んでくる 演習を振り返る	【予習】60分 【復習】60分
7	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 課題の明確化と達成のヒント	演習を振り返る	【復習】60分
8	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
9	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 目標化	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
10	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 5W1Hの視点から	演習を振り返る	【復習】60分
11	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 ICFの視点から	演習を振り返る	【復習】60分
12	介護実習の事例から学ぶ介護計画の立案 PDCAの視点から	演習を振り返る	【復習】60分
13	事例から学ぶ援助内容と実践方法 多職種連携の視点から	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
14	事例から学ぶ援助内容と実践方法、評価に向けて	テキスト第3章を読んでくる 演習を振り返る・演習シートを修正する	【予習】60分 【復習】60分
15	事例から学ぶ介護計画の修正	演習を振り返る	【復習】60分
16	事例から学ぶ援助内容と実践方法 社会資源の活用の視点から	演習を振り返る	【復習】60分
17	評価の意義と目的	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
18	評価にあった介護計画の修正	演習を振り返る	【復習】60分
19	介護実習の事例から 介護計画立案の演習	演習を振り返る	【復習】60分
20	介護実習の事例から 介護計画立案の演習と援助内容の記述について	演習を振り返る	【復習】60分
21	介護実習の事例から 介護計画立案と評価の演習	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
22	介護実習の事例から 介護計画立案と評価、計画の修正	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
23	介護実習の事例から 介護計画立案と評価、計画の修正とカンファレンス	演習を振り返る	【復習】60分
24	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	テキスト第4章を読む	【予習】60分
25	チームアプローチにおける介護福祉士の役割の演習	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
26	チームアプローチにおける介護福祉士の役割に関する演習の振り返り	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
27	事例演習に向けて	テキスト第5章を読む	【予習】60分
28	多様な事例の演習	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
29	多様な事例の演習の振り返り	これまでの演習シートを振り返る	【予習】60分 【復習】60分
30	事例演習のまとめ	これまでの演習シートを振り返る	【復習】60分

社会福祉学科

介護福祉

2年

科目名: こころとからだのしくみⅣ			担当教員 氏名: 宮城 和美			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格 キーワード	
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード			
「こころとからだのしくみ」について、ICFの視点から利用者の排泄・睡眠などの生活場面における根拠に基づいた生活支援ができる。最終障では「人間の尊厳にかかわる終末期の身体・心理的ケアの支援ができる」ことに目標を設定する。 保健医療および保健医療対策と医事法制の概要に関する基礎知識について理解する。			根拠 尊厳 看取り ICFの視点 ターミナル グリーフケア			
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力	大体の構造や機能を学び、健全な生活支援ができる知識や技術を習得する。 保健医療および保健医療対策と医事法制の概要に関する基礎知識について理解する。					
B 専門的技術	根拠に基づいた生活支援の実践を通して介護に関わる専門性を発揮する。					
D 問題解決力	ICFの視点から情報を収集・分析して、利用者のニーズに応じた生活支援ができる。					
H コミュニケーション力	心身のケアを通して、本人や家族に共感でき、相手の死生観に基づいたコミュニケーション力を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	刻々と変化する身体のアセスメントを行い、医療職との連携のもとで、平和な看取りを支援する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。 本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中により良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第9回目に「根拠に基づいた生活支援」のまとめをする。第15回目に「終末期の介護」のまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①「こころとからだのしくみ」について			【予習】こころとからだのしくみⅢ 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分		
②排泄に関連したしくみ(排泄のしくみ)			【予習】排泄のしくみを読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分		
③心身の機能低下が排泄に及ぼす影響			【予習】排泄の影響を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分		
④排泄の変化の気づきと対応			【予習】排泄の変化を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑤睡眠に関連したしくみ(睡眠のしくみ)			【予習】睡眠のしくみを読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑥心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響			【予習】睡眠の影響を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑦睡眠の変化の気づきと対応			【予習】睡眠の変化を読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑧「こころとからだのしくみ」の観点から、生活支援技術の根拠をまとめる			【予習】②～⑦ワークシートを読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑨「死」の捉え方について			【予習】死の捉え方を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑩「死」に対するこころの理解			【予習】死について読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑪終末期から危篤状態までの変化と特徴			【予習】終末期から読む 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑫死後のからだの理解			【予習】死後のからだの変化を読む 【復習】終末期について復習する	【予習】30分 【復習】30分		
⑬終末期における医療職との連携			【予習】医療職との連携を読む 【復習】ターミナルケアの復習する	【予習】30分 【復習】30分		
⑭人生の最終段階のケア			【予習】最終段階について読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑮「こころとからだのしくみ」の総括			【予習】⑨～⑭のワークシートを読む	【予習】30分		
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11『こころとからだのしくみ第2版』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8400-3 C3036			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は、生活支援技術の根拠となる分野である。しっかりとマスターしてください。						

## 社会福祉学科

科目名: 発達と老化の理解Ⅱ			担当教員 氏名: 宮城 和美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての実務経験を活かし、子供から高齢者の様々な発達過程を理解し学ぶ機会になればと思う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
成長・発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得します。高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習します。					老化 からだの変化 高齢者の心理 高齢者に多い疾患	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			発達の観点より、老化に伴うところの変化を理解する			
E 自己管理能力			現場に適応できる力を養う			
H コミュニケーション力			自己・他者の理解を深める			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: 40 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他20%は、授業の出席や受講態度等による。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートにコメントや成績をつけて返却する。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
①老化にともなう身体的な変化と生活の影響について					毎回の事後学習として、授業で学んだことを通して、高齢者の心理を理解し高齢者に接する自分自身の自己肯定感と他者肯定感をバランス良く高めるにはどのようにすれば良いか考えましょう。	120分
②老化にともなう心理的な変化と生活への影響について						120分
③老化にともなう社会的な変化と生活への影響について						120分
④健康長寿に向けての健康について						120分
⑤高齢者に多い症状・疾患の特徴について①						120分
⑥高齢者に多い症状・疾患の特徴について②						120分
⑦中間のまとめ						120分
⑧高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(骨格系・筋系)						120分
⑨高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(脳・神経系)						120分
⑩高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(皮膚・感覚器系)						120分
⑪高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(骨格系・筋系)						120分
⑫高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(循環器系・呼吸器系)						120分
⑬高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(消化器系)						120分
⑭高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について(感染症・精神疾患)						120分
⑮総括						120分
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座12 『発達と老化の理解第2版』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8401-0 C3036				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

## 社会福祉学科

科目名: 認知症Ⅱ				担当教員 氏名: 才川 享子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 認知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響、地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による基礎的支援などを習得する。認知症利用者がいる介護老人福祉施設や病院で介護福祉士や看護師としての経験がある教員が担当する。						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
認知症の人やその家族へのケアについて学ぶ。「認知症の受容過程」への支援、家族の介護力評価、レスパイト等認知症の人とその家族を支える地域連携についても学ぶ。						尊厳の保持 パーソンセンタードケア チームアプローチ 地域連携 レスパイトケア
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			認知症の基礎的知識を身に付け、ケアに関わる専門性を発揮する。			
D 問題解決力			問題解決に必要な情報を収集・分析し、行動状況をアセスメントできる。			
G 倫理観			尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。			
H コミュニケーション力			他者に共感でき、相手の立場や状況を判断できる力を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に認知症高齢者との関わり方、より良いケアを学生間で議論する。その他20%は、授業の態度やグループワークの参加度について評価をする。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後の課題レポートを配布し、理解度を確認する。最終試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートは、コメントし返却する						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
①認知症の人の生活理解(社会との関わりへの影響)						【予習】テキストを読む 【復習】①の復習 【予習】30分 【復習】30分
②認知症の人の生活理解(社会的環境の力)						【予習】テキストを読む 【復習】②の復習 【予習】30分 【復習】30分
③認知症の人の生活理解(生活を続ける)						【予習】テキストを読む 【復習】③の復習 【予習】30分 【復習】30分
④認知症の人に対する介護(本人主体の理念に基づいた関わり)						【予習】テキストを読む 【復習】④の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑤認知症の人に対する介護(認知症への気づき)						【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑥認知症の人に対する介護(認知症の進行に応じたケアの実践)						【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑦認知症の人に対する介護(地域で支える)						【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑧認知症の人の生活理解のまとめ						【予習】配布した資料を読む 【復習】⑧の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑨地域の力を活かす(地域におけるサポート体制)						【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑩地域の力を活かす(チームアプローチ)						【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑪家族の力を活かす(介護者自身の体験)						【予習】テキストを読む 【復習】⑪の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑫家族の力を活かす(家族へのレスパイトケアとエンパワメント)						【予習】テキストを読む 【復習】⑫の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑬家族の力を活かす(家族会と介護教室)						【予習】テキストを読む 【復習】⑬の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑭認知症に関する制度・関係機関など						【予習】テキストを読む 【復習】⑭の復習 【予習】30分 【復習】30分
⑮認知症の人に対する介護のまとめ 新オレンジプランの理解						【予習】配布した資料を読む 【予習】30分
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5773-1 C3036 (1年次に購入したテキストを使用します)					その他参考文献など: 介護福祉士用語辞典	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は、「介護福祉士としての専門性」として期待される分野である。しっかりマスターしてください。						

## 社会福祉学科

科目名： 障害の理解Ⅱ			担当教員 氏名： 宮城 和美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 看護師としての実務経験を生かして、障害者の心理や家族の心理について解説する。						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
社会福祉の援助活動と心理学理論の関連について理解し、障害のある人の心理的理解を深め、家族支援、地域サポート体制について学ぶ。						障害児・者の心理 家族支援 地域のサポート体制
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			障害について理解し、介護の専門的な知識を身につける。			
H コミュニケーション力			他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる福祉の社会に生きる私になる。			
F チームワーク・リーダーシップ			他職種の役割を理解し、チームワークの一員として専門性を発揮する。			
G 倫理観			尊厳を支え、人権擁護の視点を身に付けてひと・もの・ことに働きかける。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %	レポート： 40 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項： その他の20%は、授業態度、各内容のグループワーク参加姿勢を評価します。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修		ディスカッション、ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 授業終了後に課題レポートを配布し、理解度を確認する。最終試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 課題レポートは、コメントし、返却する。						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
①障害のある人に対する介護の基本的視点を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
②視点に基づいた個別支援を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
③連携と協働、地域のサポート体制を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
④家族への支援を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑤家族の状態の把握と介護負担の軽減を理解し課題を考察する(グループワーク)						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑥保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携(チームアプローチ)を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑦地域におけるサポート体制 について具体的活動などを調査する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑧障害児・者の心理を学ぶにあたっての基本的理解 ※障害者の心理的理解、人間理解のための心理学理論と技法、心理的援助法の概要を含む						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑨身体障害者の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑩知的障害児・者の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑪自閉症の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑫発達障害の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑬中途障害者の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑭精神障害者の心理を理解する						【予習】テキストをよめる 【復習】テキストをまとめる 【予習】30分 【復習】40分
⑮重症心身障害児・者の心理、まとめ						【予習】テキストをまとめる 【予習】60分
使用テキスト： 最新・介護福祉士養成講座「障害の理解」中央法規 ISBN 978-4-8058-5774-8				その他参考文献など： 現代心理学の基礎と応用-人間理解と対人援助-芝垣正光 /目黒達哉【編】(樹村房)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 障害を受けた人の個性について考え、家族を含めたサポート体制の現状についてを学習しましょう。						

社会福祉学科			介護福祉			2年	
科目名: 喀痰吸引				担当教員 氏名: 宮城和美、境美代子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての臨床経験を活かし、基礎的知識や実施手順方法を修得できる授業をする。							
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード	
① 喀痰吸引について基礎的知識、実施手順および指導・評価方法を身につける。(結果確認報告の重要性を強調し、喀痰吸引について基礎的知識を身につける支援ができる。) ② 演習: 喀痰吸引の演習に係る方法を理解できる。						医療的ケア 安全・安楽 医療職との連携 感染予防	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力			人体の構造や機能を学び、安全な喀痰吸引ができる基礎的知識を身につける。				
B 専門的技術			喀痰吸引について実施手順を理解できる。				
C 論理的思考力			安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性をのべることができる				
F チームワーク・リーダーシップ			刻々と変化する身体のアセスメントを行い、看護職員との連携・協力の重要性を理解し、報告できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 20 %		レポート: 20 %		発表: 10 %		実技試験: 40 %	
その他: 10 %							
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。							
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第11・12・13・14回目に演習をする。第15回目にまとめをする。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。							
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)			
				学習内容	学習に必要な時間(分)		
①呼吸のしくみとはたらき				【予習】テキストを読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分		
②いつもと違う呼吸状態				【予習】テキストを読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分		
③喀痰吸引とは				【予習】テキストを読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分		
④人工呼吸器と吸引				【予習】テキストを読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑤子どもの吸引について、利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意				【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑥呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)				【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑦喀痰吸引により生じる危険と事後の安全確認、事故発生時の対応と事前対策				【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑧喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持				【予習】テキストを読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑨吸引の手順と留意点				【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑩喀痰吸引にともなうケア、報告および記録				【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑪【宮城・境】演習: 口腔内および鼻腔内吸引のケア実施				【予習】DVD 喀痰吸引を観る 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑫【宮城・境】演習: 口腔内および鼻腔内吸引のケア実施と報告・片付け・記録				【予習】テキスト 喀痰吸引実施を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑬【宮城・境】演習: 気管カニューレ内部吸引のケア実施				【予習】テキストの喀痰吸引実施を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑭【宮城・境】演習: 気管カニューレ内部吸引のケア実施と報告・片付け・記録				【予習】テキスト 喀痰吸引実施を読む 【復習】演習の復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑮喀痰吸引まとめ				【予習】配布資料を読む。	【予習】30分		
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」中央法規出版 ISBN978-48058-5775-5 C6036				その他参考文献など: DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点 <DVD>			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習をして下さい。医療的依存度の大きい要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を見つめ、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。 医療的依存度の大きい要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を見つめ、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。							

社会福祉学科			介護福祉			2年
科目名: 経管栄養				担当教員 氏名: 宮城和美、境美代子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護師としての臨床経験を活かし、基礎的知識や実施手順方法を修得できる授業をする。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
①経管栄養について基礎的知識を身につける支援ができる。 ② 経管栄養の演習に係る指導・実施評価方法を身につける支援ができる」ことに目標を設定する。安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性を強調すること。						医療的ケア 安全・安楽 医療職との連携 感染対策
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			人体の構造や機能を学び、安全な経管栄養ができる基礎的知識を身につける。			
B 専門的技術			経管栄養:経管栄養について実施手順を理解する。			
C 論理的思考力			安全管理体制の確保として医師・看護師・看護職員等で利用者の状態に関する情報の共有と報告、連絡相談等の連携の体制確保の重要性をのべることができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			刻々と変化する身体のアセスメントを行い、看護職員との連携・協力の重要性を理解し、報告できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %		レポート: 20 %		発表: 10 %	実技試験: 40 %	その他: 10 %
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第11・12・13・14回目に演習をする。第15回目にまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや課題レポートにコメントを記載し返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①消化器系のしくみとはたらき				【予習】テキストを読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②消化・吸収とよくある消化器の症状				【予習】テキストを読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③経管栄養とは、注入する栄養剤に関する知識				【予習】テキストを読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④経管栄養実施上の注意点				【予習】テキストを読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤子どもの経管栄養について、利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意				【予習】テキストを読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥経管栄養に関係する感染と予防				【予習】テキストを読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦経管栄養に生じる危険と注入後の安全確認、事故発生時の対応と事前対策				【予習】テキストを読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持				【予習】テキストを読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨経管栄養の手順と留意点				【予習】テキストを読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩経管栄養に必要なケア、報告および記録				【予習】テキストを読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪【宮城・境】演習: 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養のケア実施				【予習】DVD経管栄養を観る 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫【宮城・境】演習: 胃ろうまたは腸ろうによるケア実施と報告・片づけ・記録				【予習】テキスト経管栄養実施を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬【宮城・境】演習: 経鼻経管栄養のケア実施				【予習】テキスト経管栄養実施を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭【宮城・境】演習: 経鼻経管栄養のケア実施と報告・片づけ・記録				【予習】テキスト経管栄養実施を読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養、経管栄養まとめ				【予習】配布資料を読む	【予習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5775-5 C3036				その他参考文献など: DVDで学ぶ喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習をして下さい。医療的依存度の大きい要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を忘れずに、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。						

社会福祉学科			介護福祉		2年				
科目名: 介護総合演習Ⅲ				担当教員 氏名: 宮城 和美					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護従事および施設管理者の経験から介護過程の展開および介護業務全般についての理解を促します。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
本科目は、次の①と②の目標を持つ実習Ⅱ-②に関する予習・復習指導を行い知識と技術を習得する。①とは、「利用者の介護計画を立案し、実践、評価、修正ができ、介護の根拠を理解し構築する。」また、②とは、「実習生が自ら設定する実習課題に基づき介護福祉士として必要な態度と能力を習得する」である。						介護実践のエビデンス 自己課題 評価 職業倫理			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9. 10				
B 専門的技術	介護を必要とする利用者の潜在能力を引き出し、発揮させることの意義が理解できる。								
D 問題解決力	「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じたケアプランを実践できる」課題解決能力を習得する。								
E 自己管理能力	実習を有意義にするために、心身共に自己管理できる「私」の宣言書を作成する。								
F チームワーク・リーダーシップ	他職種協働の意義を理解して、チームケアのあり方を学ぶ。								
G 倫理観	尊厳を支えるケアが実践できる介護福祉士として社会福祉に生きる「私」になる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: その他50%とは、授業への取り組み姿勢の評価と実習ファイルに関する評価です。アクティブラーニングを基本とし、グループワークを行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習前後に巡回ごとに報告会を行うのでその際にレポートを提出します。実習終了後は報告書の作成をし発表会を行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを入れて返却します。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①実習Ⅱ-②の目的の理解と実習のオリエンテーション				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
②記録について(実施・評価の記録方法)				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
③介護過程について				予習: 実習要綱を読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
④記録物の確認				予習: テキストを読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
⑤【特別講義】				予習: 施設の概要を調べる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
⑥事前報告会				予習: テキストを読んでもくる。 復習: 授業の復習	【予習】30分 【復習】30分				
⑦事後報告会				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑧生活支援技術の振り返り				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑨介護過程の記録の修正				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑩実習報告会①レクリエーション企画と実施				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑪実習報告会②勤務体制(遅番・早番)について				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑫実習報告書の作成に向けて				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑬実習報告書の作成と実習の振り返り				記録の整理	【予習】30分 【復習】30分				
⑭実習報告会③介護実践のエビデンスの明確化				報告集を読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑮実習報告会④介護実践のエビデンスの明確化				報告集を読む	【復習】30分				
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8399-0 C3036 ②社会福祉学科実習要綱(2022作成)				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習Ⅱ-②の指導科目です。記録類の保管に留意してください。									



## 社会福祉学科

科目名: ソーシャルワークの理論と方法(専門) I				担当教員 氏名: 中村 尚紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須) 福祉心理士			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 子ども、高齢者、障害者等に対する相談支援を行ってきた経験をもとに、対象者とその取り巻く環境に対する支 援のあり方を検討する演習を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソ ーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形 成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。③社会資源の活用の 意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。						ソーシャルアクション カンファレンス ネットワーキング 社会資源			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			ソーシャルワーク技術について知識を深めることができる						
B 専門的技術			実践現場で活かせる援助技術を身につける						
C 論理的思考力			対象を多角的にとらえ、リアルニーズの把握と社会資源に結びつける						
D 問題解決力			事例検討をととしてソーシャルワークの実践力を身につける						
G 倫理観			相談援助職の専門的役割や使命とともに倫理綱領を理解し実践活動ができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:その他は、授業出席、態度を評価する。(事例検討後の感想や気づき等のレポート提出も含む。)									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回授業後に中間レポート形式)、第15回後に期末レポートを提出。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 講義内での講評 レポートはA、B、C、D、Eで評価を行う。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①ソーシャルワークにおける援助関係の形成 (援助関係の意義と概念 援助関係の形成方 法)				【事前】第1章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
②ソーシャルワークにおける援助関係の形成(面接技術、アウトリーチ)				【事前】第2章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
③ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 I (意義、目的、方法等)				【事前】第4章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
④ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 II (ソーシャルアクション)				【事前】第4章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑤事例分析				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑥ネットワークの形成 I (意義、目的、方法等)				【事前】第3章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑦ネットワークの形成 II (家族、住民のネットワーキングとコーディネート)				【事前】第3章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑧事例分析				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑨ソーシャルワークに関連する方法 I (ネゴシエーション、ファシリテーション)				【事前】第7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑩ソーシャルワークに関連する方法 II (プレゼンテーション)				【事前】第7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑪カンファレンス(意義、目的、運営と展開)				【事前】第5章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑫事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑬事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑭事例分析(グループワーク)				【事前】第6章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
⑮まとめ				【事前】第1～7章を読む 【事後】振り返りレポートの提出	【予習】120分 【復習】120分				
使用テキスト: 最新 社会福祉養成講座6ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)、中央法規、ISBN:978-4-8058-8249-8				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

社会福祉学科									
科目名: ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ				担当教員 氏名: 中村 尚紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須) 福祉心理士			
実務経験を用いてどのよう社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそつた事例などを用いて支援方法を学うな授業を行っているか: ぶ授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。②社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。③個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。					ジェネラリストソーシャルワーク、社会資源、アウトリーチ、多様性、マイノリティ 災害ソーシャルワーク				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)						
A 知識・理解力			1年次に学んだ相談援助の理論と方法の理解をさらに深める。						
B 専門的技術			実践場面で活かせる相談援助の専門的技術を身につける。						
C 論理的思考力			対象を全体的・包括的に捉え、整理・分析しニーズを理解できる。						
D 問題解決力			相談場を複眼的にとらえ、社会的資源を活用できる。						
G 倫理観			相談場面に必要な倫理を理解する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:その他として、授業に対する参加度や態度、毎回の感想(出席カード)を含む。アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:第7回で中間レポート、第15回後に期末レポートを提出。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントとA、B、C、D、E評価をつけて返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
②ジェネラリストソーシャルワーク			【事前】第1章第3節を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
③多様化、複雑化した生活課題への対応、分野、領域を横断する支援			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
④事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑤家族支援の実際(家族が抱える複合的な生活課題、家族支援の目的、方法、留意点)			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑥事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑦地域支援の実際(地域が抱える課題、多機関協働、地域住民との協働、地域アセスメント)			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑧事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑨事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑩非常時や災害時支援の実際(災害ソーシャルワーク)			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑪事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑫事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑬多様性の尊重(マイノリティへの支援)			【事前】第1章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑭事例分析			【事前】第6章を読む 【事後】講義内容をレポートでまとめる。		【予習】120分 【復習】120分				
⑮発表			【事前】第1章・第6章を振り返る 【事後】発表等の内容をレポートにまとめる		【予習】120分 【復習】120分				
使用テキスト:最新 社会福祉養成講座6ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)、中央法規、ISBN:978-4-8058-8249-8				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 教科書はソーシャルワークの理論と方法Ⅲと同じものを使用します。前期の講義で学んだことを実践的に学ぶため事例分析を行います。予習と復習を行い理解を深めるよう頑張ってください。									

## 社会福祉学科

科目名: 貧困に対する支援			担当教員 氏名: 根津 敦			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			現在も継続しているホームレス支援や生活困窮者支援の経験を通し、生活保護法の目的、基本原理、基本的な仕組みについて、具体的ケースを紹介しながら説明します。生活困窮者の人権や関係機関との連携の在り方、相談支援等の実際についても学習します。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</li> <li>・貧困の歴史と貧困観の変遷と、貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。</li> <li>・貧困による生活課題を踏まえ、適切な支援のあり方を理解する。</li> </ul>					絶対的貧困、相対的貧困、社会環境、貧困観、生活保護法、生活困窮者自立支援法	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	貧困の歴史と貧困観の変遷を理解する。					
C 論理的思考力	貧困状態にある人の生活実態と取り巻く社会環境を理解する。					
D 問題解決力	貧困による生活課題を踏まえ、適切な支援のあり方を理解する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %	レポート: 80 %	発表: 0 %	実技試験: 0 %	その他: 20 %		
特記事項: 課題に対しテキストからの引用だけでなく、自分なりの見方、考え方に触れてあるものを評価する。その他出席態度を評価。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業でレポートを課し、翌週以降に返却します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業の中でレポートの論点解説、確認をする。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①オリエンテーション、貧困問題とソーシャルワーカー			【予習】新聞・テレビ・映画等の記事で関心をもつ 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
②貧困とは何か			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
③貧困状態にある人を取り巻く社会環境と生活実態			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
④生活保護制度の原理と原則			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑤生活保護の種類・範囲・方法と基準			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑥保護の申請・決定・支援の流れ、被保護者の権利および義務、不服の申し立て、行政訴訟			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑦生活保護の動向、福祉事務所の機能、生活保護の費用・財政			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑧福祉国家と公的扶助の位置			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑨公的扶助の誕生			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑩日本の公的扶助の歴史			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑪諸外国の公的扶助(韓国、ドイツ、アメリカ)			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑫生活困窮者自立支援法制定の背景と理念			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑬子どもの貧困対策の推進に関する法律			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑭さまざまな貧困・生活困窮者に対する支援制度			【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑮授業のまとめと振り返り			【予習】全体の復習	【予習】120分		
使用テキスト: 小さな学問の書(1)日本国憲法 童話屋編集部 編 ISBN978-4-88747-014-9 毎回資料を配布します。			その他参考文献など: 新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑬『貧困に対する支援』、岩永理恵・後藤広史・山田壮志郎編著 ミネルヴァ書房			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 近年、低所得者、生活困窮者の支援について大きな変化があります。例えば、コロナ禍が貧困問題をより多くの人々に影響を与え、より複雑化をし、より深刻化しています。新聞、テレビ等の報道からも新たな取り組みを理解していく必要があります。						

## 社会福祉学科

科目名：保健医療と福祉		担当教員 氏名：中村 尚紀			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必須) 介護福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：保健医療領域の特性を理解するため、医療現場の実情や多職種の専門性について実践例踏まえながら学びを深める。					
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
ソーシャルワークで活用する医療保険制度や保健医療サービスについて知る。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際について学び、多職種との協働のあり方を考える。					保健 保険 医療 病院 公衆衛生 退院支援 ヘルスプロモーション
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 9	
A 知識・理解力	保健医療サービスの歴史的背景や知識を理解する				
B 専門的技術	保健医療サービスを多角的な視点から捉えられる知識を身につける				
C 論理的思考力	公衆衛生等の知識を用いて保健医療サービスについて説明出来る力を養う				
D 問題解決力	社会問題と保健医療サービスの知識を照らし合わせながら問題解決の力を身につける				
G 倫理観	保健医療サービスの概念を理解し、倫理観を身につける				
成績評価の方法・基準：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： 80 %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。					
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末はレポート別に定めた日時に実施。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポートと中間レポートと期末レポートはABCD評価で採点し返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①保健医療の課題をもつ人の理解Ⅰ(疾病の理解)			【予習】第1章第1節を読む。 【復習】第1章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
②保健医療の課題をもつ人の理解Ⅱ(家族の理解、患者の権利)			【予習】第1章第2～3節を読む。 【復習】第1章第2～3節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
③医療倫理			【予習】第2章第1節を読む。 【復習】第2章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
④患者の意思決定をめぐる課題(ACP等)			【予習】第2章第2節を読む。 【復習】第2章第2節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑤保健医療の動向Ⅰ(疾病構造の変化)			【予習】第3章第1節を読む。 【復習】第3章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑥保健医療の動向Ⅱ(入院医療、在宅医療、ターミナルケア等)			【予習】第3章第1～3節を読む。 【復習】第3章第1～3節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑦保健医療領域の政策・制度Ⅰ(保健医療制度の体系・運営等)			【予習】第4章第1節を読む。 【復習】第4章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑧保健医療領域の政策・制度Ⅱ(医療法等)			【予習】第4章第2節を読む。 【復習】第4章第2節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑨保健医療領域の政策・制度Ⅲ(医療費の保障、その他制度等)			【予習】第4章第3～4節を読む。 【復習】第4章第3～4節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑩保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅰ(各専門職の役割、医療チーム等)			【予習】第5章第1節を読む。 【復習】第5章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑪保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅱ(多職種連携等)			【予習】第5章第2節を読む。 【復習】第5章第2節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑫保健医療領域の専門職の役割と連携Ⅱ(所属部署の体制等)			【予習】第5章第3節を読む。 【復習】第5章第3節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑬保健医療領域の支援の実際Ⅰ(医療ソーシャルワーカーの業務指針等)			【予習】第6章第1節を読む。 【復習】第6章第1節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑭保健医療の支援の実際Ⅱ(各領域の医療ソーシャルワーカーの役割)			【予習】第6章第2節を読む。 【復習】第6章第2節をレポートでまとめる。	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【予習】第1～6章節を読む。 【復習】第1～6章をレポートでまとめる。	【予習】240分	
使用テキスト：最新・社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉、中央法規、ISBN978-4-8058-8248-1			その他参考文献など：よくわかる医療福祉-保健医療ソーシャルワーク-(ミネルヴァ書房)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：保健医療の基礎や多職種連携の方法を学んでいきます。保健医療と福祉の理解を促進するため予習と復習を行ってください。					

## 社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク演習(専門)IV		担当教員 氏名: 中村 尚紀							
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次 後期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。実習を通じて体験した事例について、事例検討を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。また、実践力の向上のためのスーパービジョンを体験的に理解する。					地域課題、地域アセスメント、ニーズ把握、地域福祉の計画、組織化、社会資源、ミクロ・メゾ・マクロ				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動 目標		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10					
A 知識・理解力		ソーシャルワークに必要な知識と技術を、理論化し体系立てることができる。							
C 論理的思考力		利用者の抱える問題を、複眼的論理的に分析できる。							
D 問題解決力		適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。							
G 倫理観		ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。							
H コミュニケーション力		ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> デイバート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
②事例検討(高齢分野) I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
③事例検討(高齢分野) II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
④事例検討(障害分野) I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑤事例検討(障害分野) II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑥事例検討(児童分野) I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑦事例検討(児童分野) II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑧事例検討(社会福祉協議会) I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑨事例検討(社会福祉協議会) II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑩事例検討(病院) I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑪事例検討(病院) II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑫スーパービジョン I			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑬スーパービジョン II			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑭スーパービジョン III			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
⑮発表			【予習・復習】レポート作成		【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[社会専門](中央法規)ISBN: 978-4-8058-8250-4				その他参考文献など: 社会保障制度活用ガイド 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

## 社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			担当教員 氏名: 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーク実習に向けて、各領域のソーシャルワークの特徴を踏まえた授業を行う							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。					ソーシャルワーク 知識と技術 スーパービジョン				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。							
B 専門的技術		実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。							
E 自己管理能力		実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。							
G 倫理観		実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。							
H コミュニケーション力		実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習終了後に実習報告書を提出し、実習の報告会を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①オリエンテーション 実習計画書作成と事前訪問の方法など			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
②実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅰ (実習生、指導者、教員の三者協議を踏まえた計画とする)			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
③実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅱ			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
④実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅲ			【事前】第3章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑤事例検討(グループ学習)Ⅰ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑥事例検討(グループ学習)Ⅱ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑦実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅰ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑧実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅱ			【事前】第6章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑨実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)			【事前】第1章第5節を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑩「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解			【事前】第2章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑪現場実習Ⅱ直前オリエンテーション(諸注意など)			【事前】第4章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑫報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅰ スーパービジョン			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑬報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅱ			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑭報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅲ			【事前】第5章を読む 【事後】学習内容をまとめる		【予習】60分 【復習】60分				
⑮実習後の学習(自己評価を含む)			【事前・事後】授業で学んだことを復習し、まとめる		【復習】60分				
使用テキスト: 最新社会福祉養成講座 8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習[社会専門]、中央法規、ISBN:978-4-8058-8251-1			その他参考文献など: 福祉小六法、中央法規、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。実習終了後の実習報告レポートを締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されない。十分な覚悟の上履修してほしい。尚、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を取得していないものは、履修できない。									



## 社会福祉学科

科目名： 精神医学と精神医療Ⅱ			担当教員 氏名： 木戸 幹雄			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(選択) 精神保健福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			精神科医師としての実務経験を活かして、精神医学と精神医療について教授する。			
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。 ③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。						精神医学・精神医療、精神保健福祉士
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	精神医学と精神医療について理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。					
C 論理的思考力	精神医学と精神医療に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。					
G 倫理観	精神医学と精神医療に必要な倫理を理解する。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 40 %		
特記事項：「その他:40%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①精神疾患の治療①～薬物治療～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②精神疾患の治療②～精神療法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③精神疾患の治療③～脳刺激法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④精神疾患の治療④～作業療法～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤精神疾患の治療⑤～地域精神医療～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥精神疾患患者の動向				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦医療制度改革と精神医療				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧医療機関の医療機能の明確化・中間まとめ				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨外来治療と在宅医療				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩入院医療と人権擁護				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪医療観察法における入院・通院治療				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫精神科医療機関における精神保健福祉士の役割				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬精神保健福祉士と協働する職種				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭治療導入に向けた支援				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮再発予防や地域生活に向けた支援・まとめ				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑮の復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト： 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療」 中法規出版 ISBN:978-4-8058-8252-8 C3036				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

## 社会福祉学科

科目名: 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ			担当教員 氏名: 森田 頼子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(選択) 精神保健福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: <b>様々な精神疾患及びDV、虐待、不登校、ひきこもり等現代の精神保健の課題とその支援について、専門機関で培った経験を活かしてわかりやすく解説し、事例検討を通してメンタルヘルスリテラシーを高める。</b>						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の基本的考え方を理解する。 ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。						精神保健・発生予防、精神保健福祉士
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			精神保健について理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。			
C 論理的思考力			精神保健に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
G 倫理観			精神保健に必要な倫理を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項:「その他:20%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
						学修に必要な時間(分)
①精神保健の予防の考え方						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】①の復習
②精神保健に関する発生予防と対策①～アルコール問題～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】②の復習
③精神保健に関する発生予防と対策②～薬物依存～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】③の復習
④精神保健に関する発生予防と対策③～ギャンブル等依存～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】④の復習
⑤精神保健に関する発生予防と対策④～うつ病と自殺防止～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑤の復習
⑥精神保健に関する発生予防と対策⑤～子育て支援と暴力、虐待予防～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑥の復習
⑦精神保健に関する発生予防と対策⑥～認知症高齢者～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑦の復習
⑧精神保健に関する発生予防と対策⑦～社会的ひきこもり～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑧の復習
⑨精神保健に関する発生予防と対策⑧～災害時の対策～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑨の復習
⑩精神保健に関する偏見・差別等の課題①～関係法規と人材育成～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑩の復習
⑪精神保健に関する偏見・差別等の課題②～古典的偏見と制御可能型偏見～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑪の復習
⑫精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携①～国の機関と関係法規～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑫の復習
⑬精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携②～保健師と地域精神保健～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑬の復習
⑭精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携③～セルフヘルプグループ・関連団体～						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑭の復習
⑮諸外国の精神保健活動の現状及び対策						【予習】テキストの該当箇所を読む【復習】⑮の復習
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8253-3 C3036						その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): <b>現代の精神保健の課題について関心を持ち、その問題はどのようにして起きたのか、どんな支援が必要か等、様々な視点から考察する習慣を身につけていただきたい。</b>						



社会福祉学科						
科目名： 精神保健福祉の原理 II			担当教員 氏名： 山本 純子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 「原理 I」を踏まえて、精神保健福祉の原理と理念について学び、先人たちの活動から継承された精神保健福祉士固有の価値や存在意義について理解を深め、専門職として主体的に活動していけるよう授業を展開する。						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解できる					生活者 権利擁護 生活支援 職業的アイデンティティ	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値と精神保健福祉士の存在意義を理解できる					
B 専門的技術	精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）や求められる機能、役割を理解して、職業的アイデンティティの基礎を築くことができる					
C 論理的思考力	精神保健福祉法の目的や精神保健福祉士の業務特性の理解のもとで、精神障害者支援の論理性を培うことができる					
D 問題解決力	精神保健福祉士の職域や業務特性を理解したうえで、精神疾患や精神障害のある当事者の生活実態から支援の方向性を組み立てることができる					
G 倫理観	精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領に基づく職責を理解できる					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項： ・上記「その他」においては、授業出席、授業中の態度、課題の提出状況などで評価する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 講義の中間・後半でまとめと振り返りを予定している						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法： レポート・試験問題解答用紙の返却時のコメント等でアドバイスを行う						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①精神障害者の生活実態 I ～精神科医療の特異性～			【事前】4章生活特性を読む 【事後】4章生活特性をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
②精神障害者の生活実態 II ～家族～			【事前】4章生活特性を読む 【事後】4章生活特性をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
③精神障害者の生活実態 III ～社会生活～			【事前】4章生活特性を読む 【事後】4章生活特性をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
④「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯			【事前】5章原理と理念第1節を読む 【事後】5章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤「精神保健福祉士」の原理と理念 I ～原理・価値～			【事前】5章原理と理念第2節を読む 【事後】5章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥「精神保健福祉士」の原理と理念 II ～観点・視点～			【事前】5章原理と理念第3節を読む 【事後】5章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦「精神保健福祉士」の原理と理念 III ～関係性～			【事前】5章原理と理念第4節を読む 【事後】5章第4節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧精神保健福祉士法 I ～制定と改定の経緯～			【事前】6章役割と機能第1節を読む 【事後】6章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨精神保健福祉士法 II ～法の目的・定義～			【事前】6章役割と機能第1節を読む 【事後】6章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩精神保健福祉士法 III ～社会福祉士法及び介護福祉士法との関係～			【事前】6章役割と機能第1節を読む 【事後】6章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪精神保健福祉士の職業倫理			【事前】6章役割と機能第2節を読む 【事後】6章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫精神保健福祉士の業務特性 I ～価値・理念・視点・知識・技術～			【事前】6章第3節・5節を読む 【事後】6章第3節・5節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬精神保健福祉士の業務特性 II ～マイクロ・メゾ・マクロの連続性と連携～			【事前】6章第3節・5節を読む 【事後】6章第3節・5節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭精神保健福祉士の職場・職域			【事前】4章から6章を読む 【事後】6章第4節をまとめる	【予習】210分 【復習】30分		
⑮精神保健福祉士の業務内容と業務指針			【事前】6章役割と機能第3節を読む 【事後】6章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
使用テキスト： 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理(中央法規)」ISBN978-4-8058-8256-6			その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・配布する資料等は紛失しないように注意してください						

社会福祉学科						
科目名： 精神ソーシャルワークの理論と方法(専門) II			担当教員 氏名： 山本 純子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格
実務経験を用いてどのよう 精神保健福祉士の実務経験を活かして、ソーシャルワーク援助技術を用いた精神保健福祉士の実践展開を深め、問 な授業を行っているか： 題解決ができる力を培う授業展開を行う。						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。					地域生活支援 チームアプローチ コミュニティーワーク ソーシャルアドミニストレーション	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践には、多職種・多機関・他分野との連携や協働が不可欠であることを理解する					
B 専門的技術	精神障害者の生活実態と福祉ニーズを基点に効果的なソーシャルワークを展開する技術を身につけることができる					
C 論理的思考力	様々なソーシャルワークの援助技術を用いた精神保健福祉士の実践展開を論理的に説明できる力を養う					
D 問題解決力	精神障害者の多面的なニーズを多面的な視点で総合的・包括的に捉えて、問題解決ができる力を培う					
G 倫理観	ソーシャルワークの価値を具現化するものとして、常に専門職倫理を意識できている					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：「その他10%」については、授業中の態度、課題等の提出状況、出欠の状況等で評価する						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート： 発表・実技試験等の実施時期：講義の中間・後半で、日時を指定し、実施する						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート及び解答用紙返却時のコメント等によってアドバイス等を行う						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①他職種連携・多機関連携(チームアプローチ) I～連携の意義と目的～			【事前】第6章多職種連携・多機関連携第1節を読む 【事後】第6章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
②他職種連携・多機関連携(チームアプローチ) II～多職種連携・多機関連携の留意点～			【事前】第6章多職種連携・多機関連携第2節を読む 【事後】第6章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
③他職種連携・多機関連携(チームアプローチ) III～チームビルディング～			【事前】第6章多職種連携・多機関連携第3節を読む 【事後】第6章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
④他職種連携・多機関連携(チームアプローチ) IV～チームの形態と特徴～			【事前】第6章多職種連携・多機関連携第4節を読む 【事後】第6章第4節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤他職種連携・多機関連携(チームアプローチ) V～連携における精神保健福祉士の役割と実際～			【事前】第6章多職種連携・多機関連携第5・6節を読む 【事後】第6章第5・6節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 I～概念・意義～			【事前】第7章概念とその意義第1節を読む 【事後】第7章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 II～組織と精神保健福祉士の関係性～			【事前】第7章概念とその意義第2節を読む 【事後】第7章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 III～組織介入・組織改善の実践モデル～			【事前】第7章概念とその意義第2節を読む 【事後】第7章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 IV～組織運営管理の実際～			【事前】第7章概念とその意義第2・3節を読む 【事後】第7章第2・3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩コミュニティーワーク I～精神保健福祉分野におけるコミュニティーワークの意義～			【事前】第4章コミュニティーワーク第1節を読む 【事後】第4章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪コミュニティーワーク II～精神保健福祉分野におけるコミュニティーワークの実際～			【事前】第4章コミュニティーワーク第2節を読む 【事後】第4章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫個別支援からソーシャルアクションへの展開～ I～基本的視点と体制整備～			【事前】第5章ソーシャルアクションへの展開第1・2節を読む 【事後】第4章第1・2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬個別支援からソーシャルアクションへの展開 II～政策提言・政策展開～			【事前】第4章ソーシャルアクションへの展開第3節を読む 【事後】第4章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭個別支援からソーシャルアクションへの展開 III～地域移行・地域定着～			【事前】第4章～7章・資料をまとめる 【事後】第4章第4節をまとめる	【予習】210分 【復習】30分		
⑮関連分野における精神保健福祉士の実践展開～スクールソーシャルワーク・EAP～			【事前】第8章関連分野における精神保健福祉士の実践展開を読む 【事後】第8章をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
使用テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」中央法規出版ISBN978-4-8058-8257-3			その他参考文献など：授業の中で適宜紹介する			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布する資料や事例等は紛失しないように注意してください						

## 社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ				担当教員 氏名: 松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開する チームが連携する際のコーディネイト役を担えるようになる。差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。					コーディネイト、マネジメント、リハビリテーションプログラム、コミュニティソーシャルワーク				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。						
C 論理的思考力			当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。						
E 自己管理能力			常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①精神障害者支援のための様々な方法				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
②個別面接				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
③グループワークの展開				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
④ケア会議や関係者会議のコーディネイトとマネジメント				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑤リハビリテーションプログラムの実施①～行動療法～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑥リハビリテーションプログラムの実施②～作業療法～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑦リハビリテーションプログラムの実施③～回復支援プログラム～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑧アウトリーチ				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑨コミュニティソーシャルワークの展開①～地域アセスメント～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑩コミュニティソーシャルワークの展開②～地域を基盤とした支援方法～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑪社会福祉調査の意義～資源創出、政策提言～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑫精神障害理解のための住民等への普及啓発活動				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑬精神保健福祉士として取り組む人材育成～ボランティア養成、実習生指導～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑭精神保健福祉士としての業務～様々な記録の意義と作成の留意点～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑮スーパービジョン				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8258-0 C3036				その他参考文献など: 授業の中で紹介する。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

## 社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				担当教員 氏名: 松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					実習施設、個人情報、実習計画書、実習記録、スーパービジョン				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を理解する。						
C 論理的思考力			クライアントの問題を複眼的論理的に分析できる。						
E 自己管理能力			常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。						
G 倫理観			ソーシャルワーク実習における価値規範と倫理を実践的に理解できる。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実習に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習 <u>フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①実習Ⅱの目的と意義					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
②実習施設・機関の概要①～医療機関・診療所～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
③実習施設・機関の概要②～医療機関・診療所～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
④実習施設・機関の理解					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑤精神障害者に対する理解～当事者の語りから～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑥実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術に関する理解					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑦精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑧実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑨実習記録の作成方法					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑩実習計画の作成					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑪巡回指導					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑫実習課題の整理とスーパービジョン					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑬実習課題の整理と実習報告書の作成					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑭実習報告会					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑮実習の振り返りと評価					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)」中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8259-7 C3036					その他参考文献など: 授業の中で紹介する。				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 発達心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 心理臨床の実務経験に基づき、人間の生涯発達について解説するとともに、発達と関連する障害や疾患に ついて理解できるように授業構成を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人は誕生してから亡くなる時まで、遺伝的要因と環境的要因からの相互作用を受けなが ら、常に変化を続ける。すなわち生涯にわたる発達の縦軸と関連付けること無しには、 「個人」の理解はありえない。生涯発達の基礎的知識を学ぶ。					遺伝と環境、生涯発達、発達段階、発達と 支援、認知症	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.	
A 知識・理解力			発達心理学の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理を発達の観点で意味づけながら、科学的に理解できる。			
E 自己管理能力			生涯発達の縦軸に自らを位置づけて、自らを理解し、律することができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポート(40%)、期末試験(40%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回、期末試験は別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な 時間(分)		
① 遺伝と環境および発達の基礎概念			遺伝と環境について調べる		30	
② 発達段階の理論			主な発達理論を調べる		60	
③ 乳児期の心理的発達			乳児期の特徴について調べる		60	
④ 幼児前期の心理的発達			幼児前期の特徴について調べる		60	
⑤ 幼児後期の心理的発達			幼児後期の特徴について調べる		60	
⑥ 児童期の心理的発達			児童期の特徴について調べる		60	
⑦ 青年期の心理的発達および発達と関連する障害			青年期の特徴について調べる		60	
⑧ 成人期の心理的発達			テキストⅠ・Ⅱ章		60	
⑨ 高齢期: 家族との関係			テキストⅢ章		60	
⑩ 高齢期: 仕事・社会との関係			テキストⅣ章		60	
⑪ 高齢期の心理的問題			テキストⅤ章		60	
⑫ サクセスフル・エイジング			テキストⅤ章		60	
⑬ 認知症の理解と支援Ⅰ: アセスメントの技法			テキストⅥ章		60	
⑭ 認知症の理解と支援Ⅱ: BPSDへの対応			テキストⅥ章		60	
⑮ まとめ			総復習をしておく		120	
使用テキスト: シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ 老年 心理学、大川一郎・土田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子(編 著)、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-05895-2			その他参考文献など: 塚野州一(編)みるよむ生涯発達心 理学―バリアフリー時代の課題と援助―[北大路書房]			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 乳幼児から高齢者まで、「個人」を理解しようとするときに発達の観点から関連付けるこ とは、きわめて重要です。なぜなら人は常に成長・変化し続けるものだからです。必要資料は適宜、追加配布しますが、図書館等で しっかりと予習しておいてください。						



## 社会福祉学科

科目名: カウンセリング基礎演習				担当教員 氏名: 石黒 真弓					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			心療内科や学校、施設でのカウンセリング経験を基に事例を検討します。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
カウンセリング基礎理論で身に付けた知識をロールプレイングなどで実際に体験します。					対人関係・受容				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
C 論理的思考力			知識を生かし、日常生活で起こりうる場面において活用できるよう道筋をたてて考えます。						
D 問題解決力			クライアントが抱える問題について、適切に関わり問題解決に努めます。						
F チームワーク・リーダーシップ			集団内での行動に着目し、集団内での自身の役割について考えます。						
G 倫理観			自らを律しつつ、人権尊重の倫理観に基づいて他者を理解する。						
H コミュニケーション力			言語および非言語でさまざまな人との人間関係を広めます。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: 事例を基にカウンセリングをどう進めるか、様々な理論を基にグループで検討し理解を深めます。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回目の授業時に説明します									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却します。									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①自己理解、他者理解				「理解」とはどういうことか整理する		60分			
②カウンセリングテクニック1				2つの技法を使い分ける		60分			
③カウンセリングテクニック2				4つの技法を使い分ける		60分			
④カウンセリングテクニック3				6つの技法を使い分ける		60分			
⑤カウンセリングテクニック4				8つの技法を使い分ける		60分			
⑥演習1				各技法を説明できるようになる		60分			
⑦演習2				適切な技法を選び理由を考える		60分			
⑧個人カウンセリングと集団カウンセリング				集団カウンセリングについて個別とのちがいを整理		60分			
⑨グループエンカウンター1				エンカウンターの特徴をまとめる		60分			
⑩グループエンカウンター2				エンカウンターの目的をまとめる		60分			
⑪グループエンカウンター3				エンカウンターの効果をまとめる		60分			
⑫集団カウンセリング実施計画				計画をたて準備する		60分			
⑬集団カウンセリング計画発表1				計画通りだったか振り返る		60分			
⑭集団カウンセリング計画発表2				計画通りだったか振り返る		60分			
⑮まとめ				カウンセリングのながれを整理する		60分			
使用テキスト:				その他参考文献など: カウンセリングテクニック入門					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目の受講には、1年後期の「カウンセリング基礎理論」の単位修得が必要です。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 社会心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
私たちは常に人との関わりの中で生活を送っている。言い換えれば、私たちの行動や心理は常に社会からの影響を受けている。個人と社会の影響過程について、身の回りの日常的問題意識の観点から理解する。					対人関係、リスク管理、意思決定、リーダーシップ				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.				
A 知識・理解力			社会心理学の基礎知識を身に付けている。						
C 論理的思考力			社会の中で生きる人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解できる。						
H コミュニケーション力			情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身に付けている。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方型授業を行います。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習: ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学習到達度を毎回フィードバックする。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①授業概要説明:「社会心理学とは」			社会心理学と他の領域との関係についてまとめる			30			
②自己を知るⅠ:社会的自己			クエスト1:社会的自己			180			
③自己を知るⅡ:認知的不協和理論			クエスト2:認知的不協和理論			180			
④行為の原因を知るⅠ:原因帰属理論			クエスト3:原因帰属理論			180			
⑤行為の原因を知るⅡ:態度			クエスト4:態度			180			
⑥「私たち」と「あの人たち」:偏見と差別			クエスト5:偏見と差別			180			
⑦個人と集団の利益:社会的ジレンマ			クエスト6:社会的ジレンマ			180			
⑧コミュニケーションと自己呈示			クエスト7:コミュニケーションと自己呈示			180			
⑨異文化コミュニケーション			クエスト8:異文化コミュニケーション			180			
⑩他者への行為Ⅰ:怒りと攻撃			クエスト9:怒りと攻撃			180			
⑪他者への行為Ⅱ:援助行動			クエスト10:援助行動			180			
⑫集団から個人への影響:ソーシャルインパクトと権威への服従			クエスト11:集団からの影響			180			
⑬個人から集団への影響:リーダーシップ			クエスト12:リーダーシップ			180			
⑭ヒューマンエラーとリスクマネジメント			クエスト13:ヒューマンエラー			180			
⑮社会的公正と集合行動			ボスレベルクエスト			180			
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な資料は図書館等で自分で入手してください。			その他参考文献など: ロジャー・R・ホック(編)梶川達也(監訳)心理学を変えた40の研究[ピアソン・エデュケーション]; ローレン・スレイター(著)岩坂彰(訳)心は実験できるか[紀伊国屋書店]						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): クエスト型授業によるアクティブラーニングで学びます。心理学理論は、自分の日常生活と結びつけて理解することで生きた知識となります。ぜひ自発的に学習を行ってください。									

## 社会福祉学科

科目名: 臨床心理学			担当教員 氏名: 石津 孝治			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 臨床心理士としての心理臨床経験に基づき、事例を提示し、事例検討を行うことにより、理解を深める。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
心理的援助についての理論ならびに技法の基礎と心理療法プロセスについて扱う。精神分析やクライエント中心療法、行動療法といった、主要な心理療法各学派の理論と技法について概説した後、事例検討を多く取り入れることによって心理療法プロセスについて学ぶとともに、知識の定着を図りたい。						・心理学的援助 ・事例検討
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			心理学的援助の理論と技法に関する基礎的概念を理解する			
C 論理的思考力			理論が援助プロセスでどのように生かされるかについてイメージを持てる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定める。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストを採点し返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①来談者中心療法の理論と技法に関する知識を習得する。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
②来談者中心療法が重視する、共感、受容の本質について焦点を当て、事例を用いて理解を深める。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
③精神分析1(精神分析的人格論、技法論に関する知識を習得する)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
④精神分析2(精神分析の発達論についての知識を習得する。)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑤事例検討1(PTSDの治療例を素材とし、心的外傷の援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑥プレイセラピーの理論と技法について学ぶ。				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑦事例検討2(子どものプレイセラピー実践例を素材とし、子どもの援助に必要な知識、態度について学ぶ)				予習。①～⑥までの内容の理解を確認する。	予習30分	
⑧前半のまとめ。心理学的検査法(投影法による人格検査を実体験し、その方法と意義を学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑨事例検討3(うつ病の治療例を素材とし、うつ病者に対する援助方法について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑩事例検討4(子どものプレイセラピーと箱庭を併用した実践例について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑪コラージュ療法体験				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑫事例検討5(被虐待児とその母親に対する心理治療例を素材とし、被虐待児と母親の援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑬事例検討6(行動化を伴ったうつ症状を呈する心理治療例を素材とし、行動化の意味と対応について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑭児童養護施設児童の心理的援助について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
⑮全体のまとめ。心理的援助の本質について				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習30分	
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						



社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 心理アセスメント基礎実習			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	福祉心理士			
実務経験を用いてどのよ心理臨床の実務経験に基づき、心理アセスメントの基礎技術を実践的に修得するための実習を行っているか: うな授業を行っているか: る。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
福祉施設、医療、児童相談、教育相談等の現場において、利用者を客観的かつ根拠をもって理解するために、心理アセスメントは必須の技術である。心理アセスメントを実施するための基礎的技術および報告書を理解するための基礎的知識について実践的に学ぶ。						知能検査、脳機能検査、性格検査、テスト・バッテリー、アセスメント			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 9.				
A 知識・理解力			心理アセスメントの基礎知識を身に付けている。						
B 専門的技術			心理アセスメントの基礎的技術を習得している。						
E 自己管理能力			自己を客観的に理解し、自己管理に役立てられる。						
G 倫理観			心理アセスメントにおける倫理を守りながら、利用者を理解していくことができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: レポート(40×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート提出は第8回および第15回に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理アセスメント実習の進め方、注意事項、報告書の作成方法等についてのガイダンス				心理アセスメントにおける倫理についてまとめる			30		
②認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成1				ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査、長谷川式簡易知能評価スケールを、履修学生に割り当て、全ての検査について実践し、報告書を作成する。			30		
③認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成2				実習と振り返り(ビネー式)			30		
④認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成3				実習と振り返り(ウェクスラー式)			30		
⑤認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成4				実習と振り返り(ウェクスラー式)			30		
⑥認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成5				実習と振り返り(HDS-R)			30		
⑦認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成6				実習と振り返り(HDS-R)			30		
⑧認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成7				知能検査の報告書作成			180		
⑨人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成1				性格検査の中から3つ選び、検査バッテリーを構成し、実践し、報告書にまとめる。			30		
⑩人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成2				実習と振り返り(性格検査①)			30		
⑪人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成3				実習と振り返り(性格検査②)			30		
⑫人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成4				実習と振り返り(性格検査②)			30		
⑬人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成5				実習と振り返り(性格検査③)			30		
⑭人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成6				実習と振り返り(性格検査③)			30		
⑮人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成7				性格検査の報告書作成			240		
使用テキスト: テキスト不要。必要な資料・検査用具等は授業時に配布または貸し出します。				その他参考文献など: 岡堂哲雄(編)臨床心理学全書第2巻 臨床心理査定学[誠心書房]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各種心理検査を行い、人を総合的にアセスメントするための技術の基礎を学ぶ実践的科目です。福祉や心理における倫理規定は常に意識し、必ず守るようにしてください。実践的なアクティブラーニングで学びます。									

社会福祉学科			介護福祉		2年				
科目名： 介護実習Ⅱ-②				担当教員 氏名： 宮嶋、竹ノ山、長井、宮城					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
3	2年次	後期	専門科目	実習	選択	介護福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 専任教員が巡回指導します。									
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード			
本科目は、アクティブラーニングを基本とする。利用者の介護計画を立案し、根拠のある実践、評価、修正できることを目標とする。また、実習生自ら設定する課題に基づいて、介護福祉士として必要な能力を習得する最後の実習である。						介護過程の実践 自己課題 多職種連携の実践 職業倫理			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 9. 10				
B 専門的技術			利用者の個別ニーズに応じた生活支援技術の応用ができる能力を習得する。						
D 問題解決力			「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じた介護過程を展開し、計画に基づいた実践を行い評価できる。課題解決能力を習得する。						
E 自己管理能力			実習を有意義にするために、心身共に自己管理ができる「私」をつくる。						
F チームワーク・リーダーシップ			他職種協働の意義を理解し、チームの一員として生活支援が遂行できる。						
G 倫理観			専門職としての職業倫理について考え、介護福祉に生きる「私」になる。						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	100 %
特記事項：実習施設において指導者のアドバイスを受けながら、計画的に介護過程の展開を行います。その際は同じ介護職及び他職種に積極的にアプローチし情報収集を行います。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：その他100%とは、実習指導者評価と本学教員がそれぞれ行う評価にて決定することをいいます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：個別面談形式で評価を伝達します。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①	日々の記録や経験録や			記録1時間					
②	介護過程の展開記録の 活用								
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦	「社会福祉学科実習要綱」参照								
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト：富山福祉短期大学社会福祉学科『社会福祉学科実習要綱(2022作成)』				その他参考文献など：					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：実習Ⅱ-②は最後の実習になります。今までの実習を振り返り、実践のやり残しがないうように計画的に実習に取り組みましょう。									

## 社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク実習Ⅱ				担当教員 氏名: 中村 尚紀 宮嶋 潔 松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	実習	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実習機関の機能に沿って、各領域の社会福祉の役割の理解を深める									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。						現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
B 専門的技術			ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。						
E 自己管理能力			事前学習、実習中の実習記録(日誌)の作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。						
F チームワーク・リーダーシップ			実習現場の職員との連携等を行うことができる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。						
H コミュニケーション力			実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。						
成績評価の方法・基準: 実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 10月。60時間以上・8日以上 ※配属先の事情により時期が異なる場合がある。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。									
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)			
						学習内容	学習に必要な時間(分)		
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、60時間以上・8日以上の実習を行う。						分野別の指導内容によって異なる	【予習】60分 【復習】60分		
・この間担当教員による巡回指導が行われる。						実習場所の指示に従って学習を行う	【予習】60分 【復習】60分		
本実習は社会福祉士及び介護福祉士法により規定された指定施設(実習機関)において、社会福祉士受験資格取得に必要な240時間以上のうち60時間以上の実習を行うことを目的としている。特に配属地域及び実習施設・事業所等において、以下の項目にて実習指導者による指導を受けるものとする。									
①利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成									
②利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成									
③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価									
④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解									
⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ									
⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解									
⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)									
⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解									
⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解									
使用テキスト: ソーシャルワーク実習指導要綱 最新社会福祉士養成講座8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習(中央法規)ISBN: 978-4-8058-8251-1				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望分野等を参考に教員が決定する(原則として)。									

## 社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク実習Ⅱ				担当教員 氏名: 松尾 祐子、宮嶋 潔					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった実習巡回指導を行う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき、精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。					ソーシャルワーク、メンタルヘルス、クライアント理解、生活課題、スーパービジョン				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
B 専門的技術			ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。						
C 論理的思考力			クライアントが直面する問題を複眼的論理的に分析できる。						
D 問題解決力			実習中における課題を解決するために試行・省察できる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
本実習は精神保健福祉士法に規定された指定施設(実習機関)において、精神保健福祉士受験資格取得に必要な210時間のうち90時間以上、12日間以上の実習を行う。									
実習期間中は担当教員による巡回指導を行う。									
社会福祉学科 実習要綱参照									
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 社会福祉学科

科目名: 福祉心理研究Ⅱ			担当教員 氏名: 社会福祉学科教員						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			福祉・医療・心理分野の実務経験を有した教員が、多方面の研究経歴と研究経験をもとに、福祉・心理全般の諸課題について研究論文作成の指導をする。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
自身で研究テーマを決定し、1年間を通して福祉・心理に関する研究を、AD教員の指導のもとに取り組み、課題解決や実践現場のプロとしての研究法を身につける。					研究計画 研究アプローチ 考察				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 8. 9.						
A 知識・理解力			福祉・心理に関する研究に関する知識を、指導や文献調査によって修得することができる						
B 専門的技術			福祉・心理に関する実践的専門技術を、研究を通して学ぶことができる						
C 論理的思考力			想起・研究・考察・実践のプロセスを理解し、思考することによって課題解決を模索することができる						
D 問題解決力			研究を通して、問題・課題を明確化し、対応策を模索することができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: その他とは、1年間を通しての研究の取り組みの姿勢、提出物等の遵守をいいます。本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、学生が実際に調査・研究活動を行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修									
ディスカッション、ディベート									
グループワーク									
プレゼンテーション									
実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 後期の始めに中間報告会、年度の終わりに発表会を行います。それに関する論文等の提出を義務付けます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
①「福祉心理研究Ⅰ」中間報告会の振り返り					各ADごとの取り組みとなるため、統一した学習内容ではない。				
②以降、研究活動					【復習】30分				
③					【予習】60分 【復習】60分				
④					【予習】60分 【復習】60分				
⑤					【予習】60分 【復習】60分				
⑥					【予習】60分 【復習】60分				
⑦					【予習】60分 【復習】60分				
⑧					【予習】60分 【復習】60分				
⑨					【予習】60分 【復習】60分				
⑩					【予習】60分 【復習】60分				
⑪					【予習】60分 【復習】60分				
⑫論文提出					【予習】60分 【復習】60分				
⑬パワーポイントデータ提出					【予習】60分 【復習】60分				
⑭発表会リハーサル					【予習】60分 【復習】60分				
⑮研究発表会					【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 各自研究テーマに関する資料を提示する。					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 積極的に、探究心を持って取り組んでください。									